

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

東北森林管理局技術開発委員会の開催について

平成30年11月22日(木)に東北森林管理局において、平成30年度東北森林管理局技術開発委員会が開催されました。この委員会は森林技術・支援センターなどが取組んでいる技術開発課題の進捗状況や今後の方向性について、学識経験者、指導林家など外部の委員を交え審議するもので、当センターからは中間報告2課題と経常課題4課題について、報告を行いました。

今回は経常課題として報告した『特定母樹挿し木コンテナによる低コスト造林試験』について紹介したいと思います。



1 取り組んだ背景

これまで、東北局管内では、下刈回数の削減・低密度植栽及び大苗植栽等造林事業の低コスト化に向けての各種試験を行っています。下刈については、作業時期が一年の間で一番暑い時期に行われるため重労働であり身体的負担も大きく省力化が必至です。そこで、下刈作業低減に向けて、雑草木の被圧から早く脱出できる成長の早い苗木を用いて、造林地での実証が行なうことにしました。成長の優れたスギの特定母樹挿し木コンテナ苗(以下、特定母樹挿し木挿し木コンテナ苗)を植栽することで下刈回数の削減(通常の下刈5~6回程度を3回程度で実施しコスト削減効果の検証)に繋がることが期待されています。

2 調査概要

今年度より、宮城県蔵王町の白萩山国有林(仙台署管内)において、宮城県が試験研究で育成した特定母樹挿し木コンテナ苗を試験地に植栽し、下記の2つを目的として調査を開始しました。

(1) 特定母樹による優れた成長の検証

特定母樹挿し木コンテナ苗の成長の優れた点を活用し、下刈の削減効果を検証するため、毎年下刈・隔年下刈・無下刈の3種類のプロットを設定し下刈低減に繋がるか検証します(特定母樹の苗木開発に時間を要するため、本試験では挿し木苗を使用)。

(2) 挿し木コンテナ苗の検証

東北(多雪地帯)における挿し木苗の造林樹種としての可能性を検証するため、特定母樹挿し木コンテナ苗の活着率・生長量及び根の伸長状況等を調査し成長比較を行います。

3 これまでの調査結果

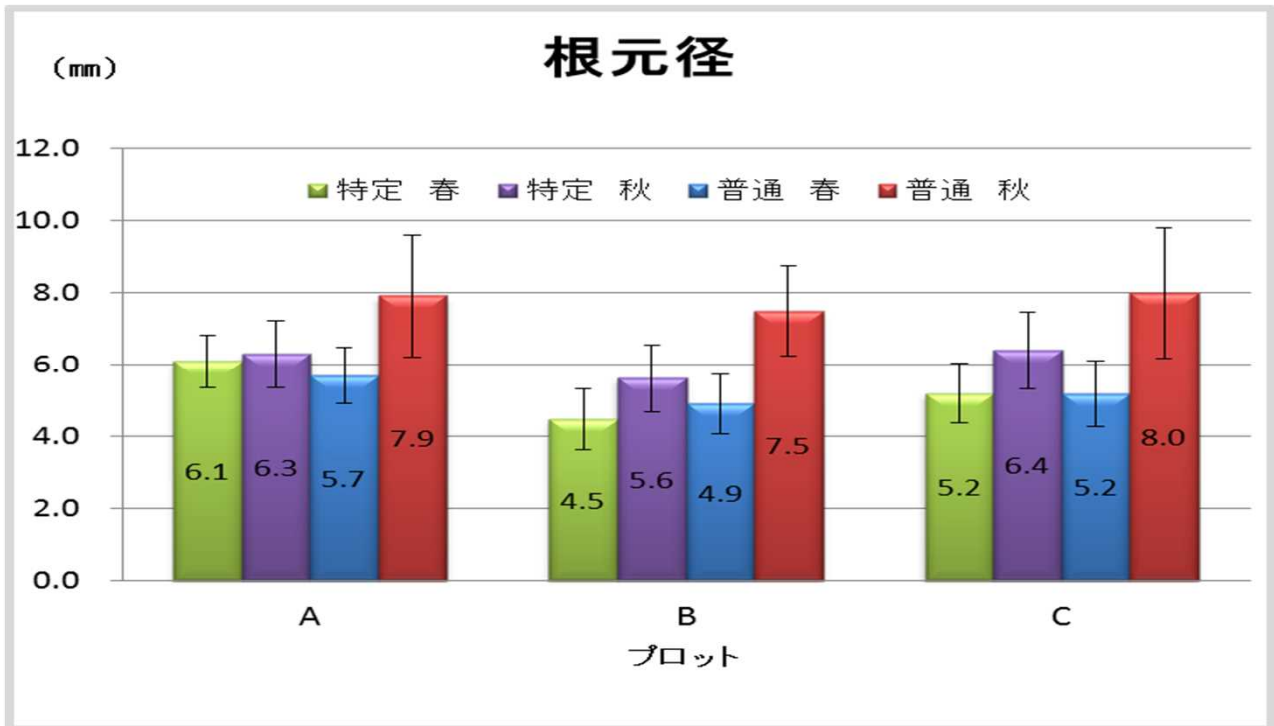
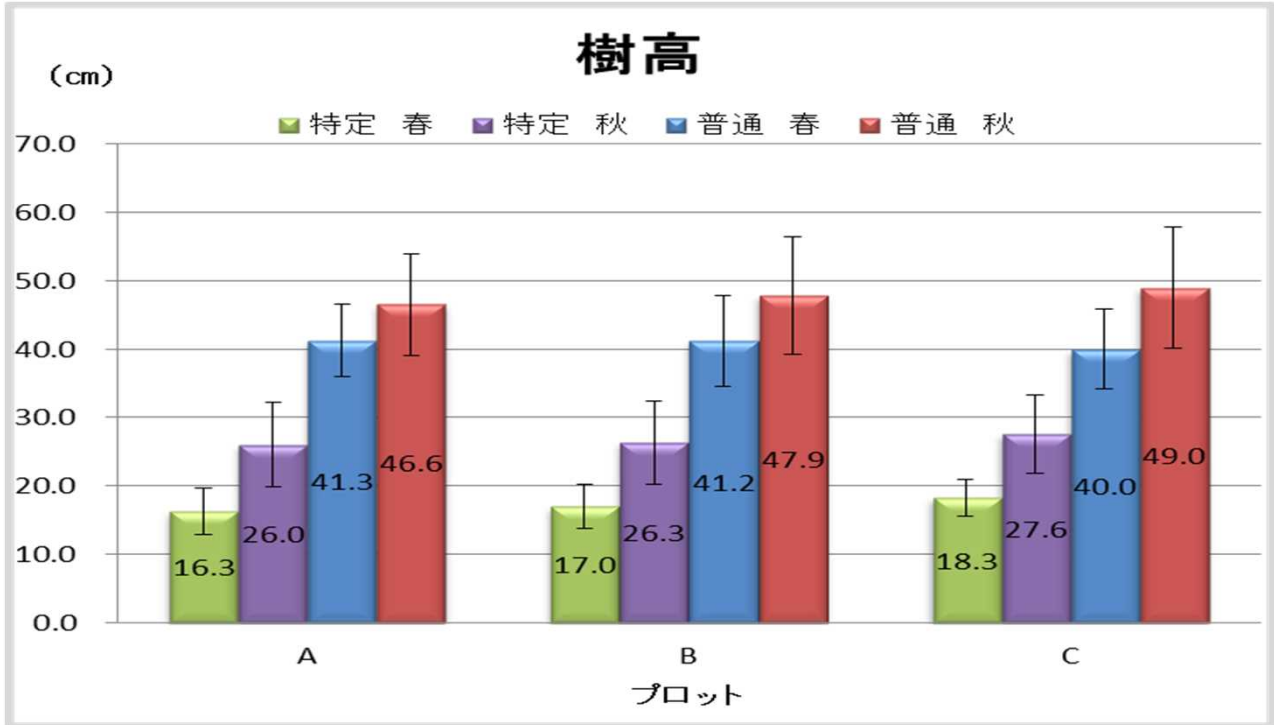
(1) 生存率

1年目秋時点(平成30年10月調査時)の特定母樹挿し木コンテナ苗は94%となっています。また、対照区として植栽したスギコンテナ普通苗80%と若干低くなりました。



(2) 成長量

平成30年度試験地設定時及び秋時点の調査結果のみですが、特定母樹挿し木コンテナ苗と対照区のスギコンテナ普通苗では植栽時点の苗木のサイズの違いがはっきりしており、二年目以降の成長推移を観察していくことにしています（データについては下記グラフのとおり）。



4 今後の展望

本試験については、開始したばかりですが、次年度以降も調査を継続し特定母樹挿し木コンテナ苗と普通コンテナ苗の生長量等のデータを積み重ねるとともに、下刈毎年区・隔年区・無下刈区を設定していることから下刈の有無により成長の違いが出てくると予想されますので今後も成果等を紹介していきたいと考えています。

【森林技術普及専門官 堀川】

林野庁東北森林管理局における基礎研修

当局では森林・林業に関する様々な知識や技術の習得を目的とした研修を実施しています。平成31年1月16日に新規採用者を対象に23名参加のもと基礎研修を当局内で実施しました。その研修で当センターから技術開発の講義を行いました。

講義は、①当センターの概要、②技術開発、③技術開発成果について説明しました。技術開発では、コンテナ苗容器、コンテナ苗植栽器具、コンテナ苗などを用いてコンテナ苗の基礎的内容を説明しました。



また、技術開発成果では当センターで過去に取り組んだ「ブナ天然林における保育作業及び間伐効果の検証」について説明し、参加者は興味深く聞いていました。

当センターでは今後も研修等の機会を通じて、職員の森林に対する基礎力の向上、技術開発の普及をすすめていきたいと思っております。
【森林技術専門官 増田】

基礎研修

- 1 森林技術・支援センターの概要
- 2 技術開発
- 3 技術開発成果



森をさんぽ

増田です！



森林技術専門官
増田 悠介

冬の終わりの2月、まだ雪の残る山や森を歩いていると、白い雪面の中に黒い点のようなものが動いているのを目にすることがあります。近くに寄って見るとセッケイカワゲラ類です。体は黒色で翅は退化して飛べません。セッケイカワゲラという名前は、初めて発見されたのが雪渓だったことに由来し、夏の高山の雪渓などにも時々見られます。

なぜ、この昆虫は雪上を歩いているのでしょうか。よくよく調べてみると、幼虫時代は溪流に生息し、秋から初冬にかけて落葉を食べて成長し、成虫が真冬に出現するそうです。そして、

成虫は太陽の位置から判断し、雪上を沢の上流方向へ移動し、性成熟後は沢へ近づき、その後、交尾し、産卵するそうです。

通常の水生昆虫と全く季節が逆の生活史でとても不思議です。他の昆虫とは違う生活史に適應することで、生き抜いてきたのかもしれない。もし雪上で出会ったら、じっくり観察してみたいか。



月山の麓にて

技術開発課題の発表について

★「平成30年度森林・林業技術交流発表会」
1月31日（木） 秋田市 にぎわい交流館Au（あう）
題 「増川ヒバ施業実験林 現状と課題」

★「平成30年度青森県森林・林業・木材関係研究発表会」
2月8日（金） 青森市 アピオあおもりイベントホール
題 「増川ヒバ施業実験林におけるヒバの成長経過」

【発表者 森林技術専門官 増田悠介】

☆編集後記☆

年が明け、1月ももうすぐ終わりですが皆様今年もよろしくお願ひいたします。

今冬は風の強い日が多く通勤で津軽の地吹雪に四苦八苦しております。命が大事・車も大事、交通事故に気をつけましょう！